Event Schedule

1 January

1月7日(土)	冬季休業終了
1月10日(火)	授業開始
1月10日(火)～24日(火)	平成24年度転部(第一部･二部間)･転科選考出願期間[入]
1月11日(水)･12日(木)	4年次生成績表交付･再試験手続き[教]※1
1月12日(木)	平成23年度第2回公認サークル連絡会[学]
1月13日(金)	準公認サークル･新規登録サークル説明会[学]
1月14日(土)	平成23年度法学部資格試験等合格者褒賞授与式[エ]
1月23日(月)	後学期授業終了(1～3年次生)[教]
1月24日(火)～2月4日(土)	学年末試験(1～3年次生)／卒業追･再試験(4年次生)[教]
1月31日(火)	ゼミナール論文提出締切日[教]※2
1月中旬	日本学生支援機構奨学金次年度継続手続き[学] ※辞退する場合も必要

2 February

2月4日(土)	定期無料法律相談会[研]
2月6日(月)	春季休業開始
2月8日(水)	学年末(含む卒業追･再)試験予備日[教]
2月14日(火)	合同企業研究会･就職セミナー(全学部合同)[就]
2月15日(水)	第2回グループディスカッション講座[就]
2月20日(月)～24日(金)	追試験(1～3年次生)[教]
2月27日(月)～3月12日(月)	第41回ヨーロッパ研修旅行[学]
2月上旬～中旬	企業研究セミナー(PART2)[就]
2月中旬	内定学生による就職相談会[就]

3 March

3月10日(土)	定期無料法律相談会[研]
3月12日(月)	平成24年度転部(第一部･二部間)･転科選考合格発表[入]
3月16日(金)	平成23年度学内学会･研究所合同研究会[研]
3月25日(日)	日本大学卒業式･学位記伝達式･卒業記念祝賀会[庶]

〈 学位記伝達式の終了後、卒業記念祝賀会をホテルグランドパレスにて盛大に行います。(事前申込制)
伝達式とはまた違うリラックスした雰囲気の中、学生生活最後の締めくくりとして御参加ください。 〉

※1　卒業試験の成績表を教務課窓口にて交付します。併せて再試験の申込みを受付けます。
※2　第一部17:00まで。第二部19:00まで。提出期限を過ぎたものは、理由の如何を問わず受理しません。

各項目についての不明点等は、各担当部署にお問い合わせください。また、略字は次の通り。
[教]教務課　[入]入学センター　[学]学生課　[研]研究事務課　[エ]エクステンションセンター　[就]就職指導課　[庶]庶務課
※日時や詳細が決まり次第、掲示板およびホームページにてお知らせします。

www.law.nihon-u.ac.jp/　詳細情報は、随時掲示板およびホームページを見て確認してください。

日本大学法学部 Journal Vol.5　2012年1月16日発行　日本大学法学部広報　通巻113号　発行:日本大学法学部企画･広報委員会

日本大学法学部

Journal Vol.5

働くを考える。

あなたはなぜ働くのか?

ひとたび「就活」という名の渦に巻き込まれてしまうと、あせり・不安・悩みといったストレスにさらされるのが現代リクルートの一般的な姿でしょう。そもそも、どんな働き方をするのが自分らしいのか、私たちはなぜ働くのか——少し肩の力を抜いて、波間から顔をあげて、考えてみませんか。

Journal Questionnaire 2011 Winter

日本大学法学部 在学生に聞きました。

〈在学生アンケート実施内容〉回答総人数：790人
実施日：11月7日〜11日　対象：法学部1年〜4年・二部学生

Q1. 将来なりたい職業がありますか?

8割以上の人が将来なりたい職業が「ある」「漠然とある」

Q2. Q1.の職業に関わらず、将来の仕事や「働くこと」への夢や理想がありますか?

「働くこと」への夢、理想がある人も8割以上!

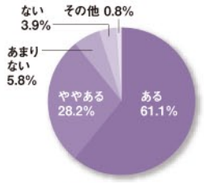
Q3. あなたは、なぜ働くのですか?(複数回答)

(回答総数：1,930)

働く理由はひとつじゃない。1人平均2.4の回答。

Pick Up! 自由意見はP.09〜10に掲載しています

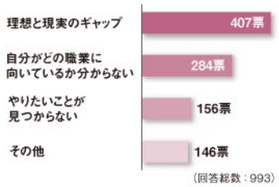
Q4. 就職について悩みがありますか?



Pick Up! こんな自由意見

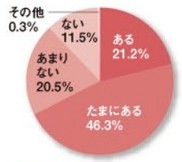
- 就職できるのか心配
- そもそも就職したくない、働きたくない
- 自分のなりたい職業に就けるかどうか
- やりたいことが多すぎて絞りきれない
- やりたい職業と向いている職業が違う気が
- 力量、スキルが足りない
- 就職か起業かで悩んでいる
- 公務員に絞るか民間も視野に入れるか
- 資格試験、国家試験に合格できるか
- 親の反対
- 不景気、就職難、将来の社会不安
- 就職してからの人間関係
- 留学から帰って就職できるのか
- どうすれば、やりたいことに近づけるか
- なかなか内定がもらえない
- 大学での勉強と就活の両立が難しい

Q5. Q4.で「ない」以外で答えた方に。その悩みとは?(複数回答)



(回答総数：993)

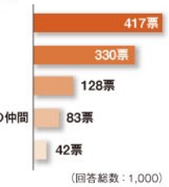
Q6. 就職や「働くこと」について、相談したり語り合ったりすることがありますか?



Pick Up! こんな自由意見

- なぜ働いているのか、を語り合う
- その機会がない
- 誰に話せばよいかわからない
- 甘いとか言われそうで本音が言えない
- 現役生の就職相談を受けるが、夢を語る割に努力しようとしない
- 「働く」をテーマにしたサロンもある

Q7. Q6.で「ある」「たまにある」と答えた方に。その相手は?(複数回答)



(回答総数：1,000)

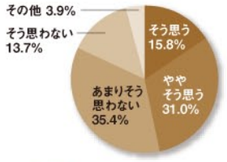
Pick Up! こんな自由意見

「その他」の相手は

- 教授、先生、恩師
- バイト先の先輩、社会人の知人
- 恋人、母親、親しい友人
- 話せる人と全部話す

- 相談しすぎると訳がわからなくなる
- 母親が就活について勉強している

Q8. 「職場や職業が合わない場合は転職した方がいい」ことについてどう思いますか?



Pick Up! こんな自由意見

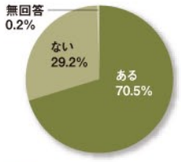
「そう思う」「ややそう思う」ひと

- 嫌な仕事をしても辛いだけ
- 転職の選択肢が広いのは若いうちだけ
- スキルアップのための転職ならいい

「あまりそう思わない」「そう思わない」ひと

- 短期間ではわからない
- 続けるうちに天職になるかもしれない
- 辛いことがあってもやり通すべき

Q9. 身近な人や、ふだん見かける人の「働くすがた」に、感動すること(したこと)がありますか?



Pick Up! こんな自由意見

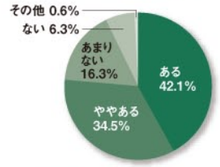
「ある」ひと

- 父親、祖父、母親、祖母、両親
- 笑顔で接してくれるひと、人を笑顔にできるひと
- 自衛隊、警察、消防員、漁師さん、教師
- 一生懸命働く姿

「ない」ひと

- みんな忙しそう
- 疲れている、ダルそうに仕事している

Q10. 「この勉強が果たして将来の仕事に結びつくのか」と思うことはありますか?



Pick Up! こんな自由意見

「ある」「ややある」ひと

- 文系なのに数ⅡBとか
- 良い成績を残せば、「勉強ができる」証明にはなる
- 語学以外は役に立たない

「あまりない」「ない」ひと

- 無駄な勉強など一つもない
- 勉強そのものを楽しんでいるから
- 見識、教養のためだから

在学生アンケートで見えてくること。

1年生と4年生、二部学生とでは自ずと就職への意識に違いがありますが、「働くこと」そのものについては、全体の8割以上が「夢や理想」を持っていることがわかりました。自由意見でもっとも多かったのが「自分の得意なことで社会に貢献できたら幸せ」というもの。一方で就職への悩みを持つ人は約9割に。働くことへの夢を忘れることなく、現実との折り合いをどうつけていくのか。実際に働くOB・OGの声に手がかりがあるかもしれません。

Interview　在学生と卒業生に聞きました。

実際に働いてみて思うこと 1

アンケートでも浮き彫りになった「就職への不安はあるものの、働くことへの夢や理想を大半の人がもっている」という事実。
就職体験で「働くプロを間近に見た」在学生と、起業から36年の大ベテランの「働く」とは。

在学生の働く

就業体験

年齢や置かれている環境の異なる人と接してコミュニケーションの本質が、少しわかった気がします。

デイケアセンターと特別支援学校で介護等体験。

現在3年生ですが、社会科の教職課程の一環として、東京都のデイケアセンターで5日間、特別支援学校で2日間、介護等体験をしました。デイケアセンターではお年寄り、特別支援学校では知的障害と肢体不自由と両方をもつ子供を相手に、最初はコミュニケーションがちゃんととれるんだろうか、というのが一番の不安であり課題でした。普段の生活では接することのない年代、置かれている環境のまったく異なる人が相手ですから。

でも、そこで働いている介護士さんや先生たちを見ていると、ちゃんとお年寄りのことや子供たちのことがわかっていて、コミュニケーションがとれているように私には見えました。たとえば「嬉しいんだよね」って先生が聞くと、相手の子供が「違う、違う」とか「そうだよ」って答える。一つひとつ確認をとりながらコミュニケーションをとっているんです。普段の私たちのコミュニケーションなら、いちいち聞かないで、たぶんあの子は怒ってないよね、と自分の価値観に頼って当たり前のように判断してしまう。「コミュニケーション能力」って簡単に言いますが、本質的にわかっていなくてこの言葉を使っている人も多いんじゃないかと思いました。介護等体験を通して、ちょっとだけですがそのことを学ばせてもらいました。

それと、介護の仕事や特別支援学校の先生の仕事って、たいへんでなり手が少ないとニュースでも聞いたことがありましたが、そういう環境でも一生懸命働いていらっしゃる姿を見ることができたのは、いい経験でした。

働くことに不安はないけど、就活は不安です。

この就業体験でもあらためて、私は人をサポートする仕事、直接でも間接でもいいから人を支えていく仕事がしたいなという夢を再確認しました。バイトでずっと、小学生に社会科を教えているなかで、偏差値が低かった子が1年で20くらい上がって「社会がすごく好きになった」と言ってくれたのがすごく嬉しかった。お尻をちょっと持ち上げてあげるような、そんな仕事が自分に向いていると思うようになりました。

教職に就くにしても企業に就職するにしても、求められることを精一杯やることが務めだと思うので、働くこと自体に不安はありませんが、就職へのプロセスは不安でいっぱいです。これまで21年間「どうにかなるさ」とマイペースでやってきましたが、どうにかならないかも……と(笑)。周りも殺気だっているというか、就活たいへんたいへんと、必要以上に不安をあおられているようなところもあります。私らしさを失わないで、視野を広くもっていきたいと思っています。

法学部 政治経済学科 3年 宮本 あかりさん

Q. 7歳のころの夢を教えてください。

A. 幼稚園の先生になりたかった。クラスの先生に憧れていて、そのことを先生に言ったら、すごく喜んでくれて。自分もそうなりたいな、誰かに憧れられる存在になりたいなと思いました。

卒業生の働く

(株)環境整備　代表取締役

天職かどうかは考えたことがありません。夢とビジョン、いい人と出会う感性が経営者には必要。

働くことは、ひと言でいえば「夢の実現」。

昭和46年(1971年)に卒業し、最初は飲食店を経営しました。商家で育ったこともあり、サラリーマンになろうと思ったことはなく、学生時代にはそこそこ勉強しながら(笑)アルバイトに勤しみました。学生の間に何とか起業のための100万円を貯めようと。親からお小遣いをもらいながらの身ではありましたが、1か月2万円を目標にがんばりました。

3年後の26歳の時に実家の商売を継ぐかたちで有限会社　ヒロタを起業し、今から17年前に現在の株式会社　環境整備という会社を作りました。廃棄物の収集から資源リサイクル、清掃、リネン、おしぼり・マットなどのレンタルまで、トータルクリーニングナビゲーターを目標に社会に貢献することをめざしています。

26歳で起業というと若いと思われるかもしれませんが、当時はそんな意識はなかったですね。日本経済がどんどん右肩上がりに上昇していく時代で、若者たちは途方もなく大きな夢を持っていました。そういう意味では今の時代より恵まれていたのでしょう。異業種の勉強会にも積極的に参加し、将来の日本のことや自分の夢を熱く語り合ったものです。ですから、僕にとって働くこととは?　と問われたら「夢の実現」。仕事は自分に与えられたものであって、それが天職かどうかは考えたことがありません。夢とビジョン、そして欲が経営者には必要だと思います。

母校愛はあるが、切磋琢磨する関係が大切。

そしてもう1つは出会い。社長業に限らず、人生って出会いだと思います。僕は常にこう言っています。「いい人の先には必ずいい人がいる。だけど、いい人を見極めるためには、そのいい人を感じる自分でなければならない。勉強して、そのレベルに達していないとわからない。だから勉強するんだ」と。いい人に積極的に出会うことが、夢の実現にもつながると思います。

日大一中、日大一高、そして日大法学部と日大一筋で、長く墨田区で事業を行っていることもあり、現在、墨田桜門会の会長をやっています。母校愛はありますよ。日大名誉教授の鵜沢先生を先頭に、多くの日大OBが中心に尽力し「勝海舟銅像」の建立を実現したことも、やはり人の出会いの力だと思います。ただ、母校愛や地元愛だけではダメで、お互いに切磋琢磨する関係が大切ですね。

隅田川の畔に建つ「勝海舟銅像」。廣田さんも「建てる会」副会長として募金集めに奔走。なお、現在は「勝海舟を顕彰する会」の会長である。

法学部 経営法学科 1971年卒業 廣田 健史さん

Q. 7歳のころの夢を教えてください。

A. プロ野球の選手です。僕らの子供のころは、みな野球帽をかぶっていました。それもジャイアンツ。両親は商売をしていましたが、そのころにはまだ経営者になるとかの気持ちはなく、憧れは野球選手でしたね。

Interview　在学生と卒業生に聞きました。

実際に働いてみて思うこと 2

子供のころからの憧れの職業についたり、その業界で働くということはなかなか実現しにくいもの。
夢をかなえたお二人に聞いた、実際に働いてみての「やりがい」と日々の努力とは。

在学生の働く

二部学生・救急救命士

思っていた以上に体も精神的にもきつい仕事ですが
日々、場面場面でやりがいを感じます。

きつい仕事を言い訳にせず、ただただ学びたい。

東京消防庁へ入庁して2年目です。現在は志村消防署に勤務しています。医療専門学校で救急救命士の国家資格をとり、東京都の公務員試験を受けてから入庁しました。救急救命士は一般の救急隊員とは違い、より高度な救急救命処置ができる資格です。救急車のなかで点滴をしたり、器具を使って呼吸の管理をしたりできるのは救命士だけですね。ですから今は特別消火中隊員として高度な災害に対応しながら、日によっては救急車にも乗る。そんな毎日です。

きつい仕事を持ちながら、またどうして大学の二部で法律を？　よく不思議に思われるのですが、僕の場合は直接的な目的というより、ただただ学びたかったというのが理由です。まだまだ未熟な自分の考え方を研ぎ澄ますために大学で学びたかった。高校生のころから、仕事をしながら大学へ行くというのが夢だったんです。ちょっとストイックなところがあるんでしょうね。

とは言っても正直、体や時間のやりくりはきついです。定時に終わる仕事ではもちろんありませんし、24時間ほとんど寝ないで働いて、明けてそのまま大学へということもある。過酷だな、体がもたないな、と思うこともありますが、ここで負けるのは自分に対して嫌なので。大学に相談すると、先生方も出来る限り柔軟に対応してくださり、本当に有り難いです。日大法学部は社会人の学生に対しての理解がすごくあると思います。

がんばらなきゃいけない時にがんばれる人に。

消防官は子供のころからの憧れの職業でした。人の命を救う仕事には、お医者さんなど他にもいろいろありますが、そのお医者さんよりも先に、最初に困難な状況にある人に接するのは救急隊。より直接的に人の為になりたいと思っていました。実際、出動して玄関を開けたら小さな女の子が泣いていて、どうしたのって聞いたら、そばでお父さんが自殺して亡くなっていたり。毎回、精神的に苦しくなるような経験の連続ですが、その分やりがいはあります。ポンプ隊で火事を消火すればもちろんやりがいを感じますし、1回1回、場面場面でやりがいを感じます。感謝される仕事でもありますし。

僕のように、なりたい仕事や目標が早くから見つからない学生さんもいると思います。たとえそうであっても、いま目の前にあることに一所懸命取り組むということが大切ではないかと僕は思います。与えられたものをこなす、というのが仕事の基本ですから、結局そういうことに強い人が将来的に上手くいく。目の前のことを一所懸命やり続けることが出来る人は、壁にぶち当たった時にすごく馬力がでると思うんです。がんばらなければいけない時にがんばれる人間になれると思います。

二部法律学科 1年　里岡 龍太郎さん

Q. 7歳のころの夢を教えてください。

A. 消防官です。最初は地元の、奄美大島ですが、町の消防のお兄さん。そのうち東京消防庁がかっこいいな、日本の心臓とも言える街で都民を守る仕事がしたいなと思うように。その夢から逆算しながら勉強してきました。

卒業生の働く

東京急行電鉄株式会社　車掌

顔が見えていなくても、優しい表情で話しているんだなと
伝わるアナウンスができる車掌になりたいと思います。

車内でのストレスを和らげるのが車掌の仕事。

東急田園都市線で車掌をしています。一日平均7時間の勤務で、乗務日は渋谷から中央林間までを3〜4往復し、ドアの開け閉め、車内アナウンスのほか、運転士と連携し、お客さまの安全確認を行うのが主な仕事です。もともと鉄道会社に興味があり、当初は事務の仕事がしたいと就職活動をしていました。当時、弊社の新卒採用枠に「乗務員専門職」※というのがあり、気軽な気持ちで説明を受けるうちに、車掌への夢が膨らんで（笑）。内定をもらったときには、電車が大好きな父親が私以上に喜んでいました。

「女性の車掌さんの声って聞いていて安心します」と言われたことがあります。ラッシュ時に混めば混むほど、乗車時間が長くなればなるほど、お客さまが感じるストレスは大きくなります。そのストレスを少しでも和らげることが車掌の仕事でもあると思っています。安全にお客さまを目的地までお送りし、顔が見えていなくても「ああ優しい表情で話しているんだな」とお客さまに伝わるくらいのアナウンスができる車掌になりたいと思います。休日にお子さまから手を振ってもらえた時の嬉しさは量りしれません。逆に私自身がお客さまから元気や癒しを与えてもらっている気がします。

時間のある時にはできるだけ寝て睡眠不足にならないように心がけ、少しでも肌や体に異変を感じたら体を休めることを第一に考えています。車掌も接客業のひとつですので、女性としての身だしなみやお化粧・髪型などにも気を配っています。

生活を楽しめるのは、働く時間があってこそ。

学生時代に印象的だったのはゼミです。中でも3年生の時、公開ゼミのために、みんなで集めた約1,000人のアンケートのまとめと編集に注いだ時間と労力は、その後のゼミ生の団結力にもつながるきっかけともなりました。ゼミは勉強だけでなく、大事な仲間を私に与えてくれた場所でもありました。

私が大学4年間を送ることができたのは両親の支援があってのもの。ですから「就職すること」は自立した生活をこれから送るためだと考えていました。実際に就職してみて、その考えに変わりはありませんが、それに加えて「生活にメリハリをつけるために働いているのだ」と感じるようになりました。日々の生活の中で楽しいと思えるのは、働いて辛い時間を過ごしているからこそ。休日や働いてお金をもらえることに喜びを感じることと比例して、その時間やお金を大切にしようと思えるようにもなりました。在学生の皆さん、勉強にしてもこれから就職活動に臨むにしても、本当に自分が「これだ！」と思ったものに挑戦してください。その気持ちに応えて人や環境、成果が付いてくると私は思います。

法学部 政治経済学科 2007年卒業　加藤 翠さん

Q. 7歳のころの夢を教えてください。

A. 絵描きさん。絵を描く事が好きだったので、絵描きさんになりたいと思っていたと思います。今は職場に貼るポスターにイラストを描く機会もあって、みなさんに好評で、とてもうれしいです。

※現在、東京急行電鉄株式会社では、乗務員専門職の募集は行っておりません。

職種別

［喜びあり、笑いあり、怒りあり、そして時に涙あり］

知っていますか？ シゴトの醍 醐味。

大きな企業に所属する人もあれば、自由なワークスタイルを楽しむ人もあり。20代から70代と、年齢も職種も経歴も実にさまざまな8名から届いた「仕事」への思い。“たいへんだけど面白い、面白いけどたいへん”。共通しているのはそんな声でした。

オペラ歌手

法律学科 1996年卒業
藤丸 崇浩さん

合唱団を教え公演で歌い
声楽のレッスンをし…
自分の性分に合った
ワークスタイル

佐世保の県立高校を出て日大に入学した4月に、日大系のサークル「日本大学合唱団」に入団。音楽に没頭したのが、今の仕事につながるきっかけです。学生時代は引越屋、研究助手、弁当屋、塾講師、測量補佐、展示場の設営&撤収、出版物の校正、マンション工事現場、試験監督…100種類くらいのバイトを経験。取っ替え引っ替え辞めたという訳ではなく、生来集中力のない性分でしたので、単発のアルバイトをして暮らしていた訳です。
現在も合唱団を教えたり、声楽のレッスンをしたり（1時間おきに色々な方がみえます）、公演で歌ったりして暮らしていますから、バイトを渡り歩いた昔とさほど変わりないのかも…。音楽を仕事に出来たということより、自分の性格にフィットした働き方が出来た、というのが幸せだったかなと今は思います。私も道半ばですが、学生さんには、自分のひとつのゴールを念頭に置きつつ「日々やりたいこと」を叶えながら暮らすと、気魄に満ちた毎日を過ごせるのでは、と思います。

コーヒー店 店長

法律学科 2007年卒業
押 優希さん

スタッフのちょっとした
成長は何ともいえない喜び。
日々緊張感と楽しさ

埼玉県川口市にあるスターバックスコーヒーの路面店で店長を務めています。就活で自分の中の基準がいくつかあって、「働いていてやりがいを感じられること」「楽しみながら働けること」。また、3、4年生のゼミで人事管理論を学んでいたので、「人事の仕事がしたい」と思っていました。選考が進んでいく中で、人事の方が会社の文化や価値観をしっかり話してくださり、働いている社員の方々のリアルなお話も聞けたことで、自分の働く上での基準をクリアしていきました。
この仕事の面白さは、お客様の反応が、良いことも悪いこともすぐに見えること。現場ならではの緊張感でもあり、楽しさでもあります。お客様に心温まるひと時を過ごしていただけるよう、日々努めています。今、店長をやっていて、スタッフのちょっとした成長は何ともいえない喜びがあります。店長という立場で、社員・アルバイト全員の労務管理を行う上で、ゼミで学んだことがかなり役に立っています。

教員

日本大学法学部教授
田中 襄一教授

ひとつのことを続けて
突き詰めるうちに
道が開けるのではないか

2003年に法学部の教授になり、経営法学科でインベスター・リレーションズ（IR）の講座をもっています。もともと企業で証券アナリストの仕事をする中で、1980年代の後半、「インベスター・リレーションズ」という言葉に出会い、非常に関心を持ちました。勉強し、調べていくうちに、これを社会に広めていくことが必要不可欠だと。多くの関係者の協力を得て、2001年に「日本インベスター・リレーションズ学会」が創設されました。今でこそIRという言葉が定着していますが、そのきっかけとプロセスに関わることができたのは、仕事を一所懸命にやるうちに花が咲いたということでしょう。その縁で日本大学の教員になりました。ですからIRの講座ができたのは、日本でこの大学が初めてです。自分を顧みてもそう思いますが、若い人が何かをめざして働く、というのはそんなに多くないと思います。多くの人は何がなんだかわからないけど働いている、という状況でしょう。ただ、ひとつのことを続けて突き詰めるうちに、道が開けてくるのではないかと思います。

職員

政治経済学科 1989年卒業
石崎 和文さん

われわれ職員の仕事は
縁の下の力持ち。
魅力ある大学めざし
使命感をもって

法学部入学センターで、入試全般と学生募集などの広報を行っています。18歳年齢が最大時210万人だったのが、現在は120万人。今は踊り場ですが平成30年からまた激減すると言われ、大学における広報活動の重要さが増しています。「この大学に入学してよかった」という親御さんたちの声がひとつでも多く聞けるように、魅力ある大学にすることで受験生を増やしていきたいと思っています。
私たちの仕事は、まさに縁の下の力持ち。政治の世界にたとえると、国民が学生、政治家が先生、官僚がわれわれ職員。表には出ないけれど、仕事は山積みです（笑）。働くことの1つの理由は生活のため、家族のためですが、それだけではないことを私自身、職員として働くうちに感じるようになりました。どうしてこんなに忙しい思いをして、夜遅くまで働くのだろう…と思う一方、今自分がやらないと誰もやる人がいない、という使命感や責任感。そしてそれがやりがいや面白みにつながる。これも働くことの意義ではないかと思います。

記者

新聞学科 2005年卒業
東田 悠子さん

名刺一枚で、即
どこにでも取材に行けるのは
記者という仕事の醍醐味

私の名前は、戦前に活躍した反骨のジャーナリスト・桐生悠々から1字をもらって付けられたものです。地方紙の記者をしていた父親の影響もあって、私にとって記者は、最も身近な仕事でした。
現在、TBSテレビ報道局で記者をしていますが、テレビ局の記者はフリージャーナリストではないので、制約はありますが、仕事に「型」はありません。取材も、原稿の書き方も、映像編集も、記者が100人いれば、その方法は100通り。そもそも、何がニュースなのか、それを決めるのも私たち、記者自身です。誰に取材をし、どんな話を聞き出して、どう原稿を書くのか。マニュアルや手本は一切なく、最終的には自分の感覚が頼りです。
24時間、365日、予定は立たないし、美味しいランチなんて夢のまた夢という生活ですが、自分がニュースだと感じたら、名刺1枚で、即、どこにでも取材に行けるのは、記者という仕事の醍醐味。10分後の自分が何をしているか想像できないような仕事って、なかなかないと思います。

二部学生

二部法律学科 3年
森園 新一郎さん

シルバーセンターで
働きながら夜間学ぶ。
生涯現役で
自分を高めたい

現在73歳です。鹿児島県の高校を卒業し、上京して竹細工の職人に。青年海外協力隊として竹細工を教える活動もしましたが、オイルショックで注文が止まり、竹細工をやめて会社勤めをしました。定年後もう一度学び直そうと思ったきっかけは、乙武洋匡さんの『五体不満足』を読んだこと。彼は立派に生きているのに、自分はこのまま朽ち果てるのか…と、死ぬまで勉強しようと意を固めました。
課目の中では、知的財産権法の特許関係に興味があります。竹細工の機械を作って特許を取り、教室を開くのが夢です。現在も日中はシルバーセンターで、襖貼り、障子貼りなどの仕事をしています。現役の学生さんたちには、自分で掲げた目標を10年はがんばり抜いてもらいたい。山登りと同じ、1合目2合目では何もわからず、3合目4合目になると少し視界が開け、8合目になると頂上が見える。辿り着いた時の征服感、そこで味わうおにぎりの味は格別です。ぜひ、自分の好きなことを見つけて伸ばしていってほしいですね。

プロレスラー

新聞学科 2000年卒業
KUDOさん

自分の体ひとつで
大作映画のように人の心を
動かせる素晴らしい仕事

卒業してDDTというプロレス団体に入団し、ちょうど10年。2011年7月に団体のベルトを巻き、今まで4度の防衛を重ねました。もともとプロレスが好きで、大学でプロレス研究会に入りましたが、体の線も細かったので、憧れは抱きながらもプロレスラーになれるとは思っていませんでした。学園祭でプロの団体からリングを借りて興業を行い、その時にできたツテを頼りに、今の団体のリング設営スタッフとして潜りこみ、練習を見てもらえる機会が巡ってきた時、張り切ってパフォーマンス。社長から「やれ」との言葉をいただき今にいたっています。
DDTは小さな団体なので、選手がそれぞれ営業マンとしてチケットを全国各地に売ってまわります。その積み重ねもあり、今は両国国技館や日本武道館でやる団体に成長しました。プロレスラーとは人に感動、勇気、希望、あるいは娯楽を提供する仕事です。自分の体ひとつで大作映画のように人の心を動かせる。こんな素晴らしい仕事に出会えたことに感謝しています。

教員

日本大学法学部教授
工藤 聡一教授

本を扱う「乾物」商でなく
青年期の学生を相手にする
「なま物」商だと知る

難解な書物に囲まれ煙をくゆらす。そんなイメージの大学教授は、学術研究という無機質なものを扱う「乾物」商ととられがちです。実際私も根からの書生で、本を読んでいれば足りる気がしてこの道に入りました。しかし後から、それが青年期の学生を相手にするという、本格的な「なま物」商であることを知ることになります。
不安な時代を反映してか、己は何者か自問自答する彼らと一緒に悩む覚悟が求められている気がします。特に、人生の岐路となるのが就活で、多くの学生は極限に近いストレスに見舞われます。でも感情移入しすぎては失格、ときにグッとこらえて突き放す強さも必要です。大学院を修了し、非常勤講師などで修業を積んだ後、助教、准教授を経て辿り着けるのは早くて四十歳近く。なるまでも、なってからも胃薬が欠かせませんが、ゼミの学生が、気づけば互いに思いやり、許し、与え合ったりしていて、ああ本だけが相手でなくてよかったと感謝してみたりするから不思議です。

在学生Voice

質問「あなたは、なぜ働くのか?」 かくも多彩な本音トーク。

アンケートの最後に設けられた自由記入欄には、ひと言コメントから空欄いっぱいを使っての書き込みまで、ボリュームも内容も多彩な本音の言葉が。この多彩さこそが、「働く」ということの多面性を物語っているようです。

自立し、自分自身で働くことが当たり前であると考えている。また、養わなければならない人ができることもある。
政治経済学科 1年 男性

生活のためではあるが、働けば働くことの意義が見つかるかもしれないと思う。
公共政策学科 3年 男性

働くとは単にお金を稼ぐだけでなく、自分の持てる力を表現する「自己表現」の場だと思います。
政治経済学科 1年 男性

生きる「証」をつくる。世の中のため。
新聞学科 4年 男性

社会の一端、経済の一端に自分が加わる。
法律学科 4年 男性

やらなくて良いならやりたくないが、やらなくてはいけないので、やるしかない。
公共政策学科 2年 女性

今は就職氷河期でなかなか職が決まらない人間が多くなっている反面、定職に就いていない者を見る目は冷たい。
経営法学科 4年 女性

働かないで生きていけても「幸せ」じゃない。
公共政策学科 1年 男性

お金がなければ何もできないので、とにかく働かなければと思う。また、成人もし、社会人としてまわりの人や家族からの目も気になるので、とりあえず働かなければと感じる。
政治経済学科 3年 男性

働くことは辛いことばかりで苦痛だと思う。
法律学科 4年 女性

働くとは、誰かを守る為の行為。家族、そして自分自身。体を悪くするような仕事(環境)は本当の意味での「働いている」ということではない。
二部法律学科 1年 男性

地味でもいいから、しっかり働きたいです。
公共政策学科 1年 女性

働くことは人生そのものだ、と思う。
公共政策学科 1年 男性

人生をどれだけ素晴らしいものにするかを決めるもの。
法律学科 1年 男性

お金をもらう
↓
責任を問われる
↓
「結果」を問われる。
法律学科 2年 男性

夢の実現。
新聞学科 2年 女性

「働く」ということと、「自分が素でいられる」ということのバランスを考えていきたい。
管理行政学科 4年 男性

私は「働く」ことができる。けど一方で、心身の障がいや何らかの理由で、「働く」ことができない人がいるのも事実。働きたくても働けない人がいるのに、働ける人が働きたくないというのは失礼だと思う。私たちは日々「働く」ことができることに感謝して「働く」べきだと思う。
法律学科 2年 男性

働くことにより、社会貢献するだけでなく、様々な業務を遂行することにより人間的に成長することができる。
二部法律学科 4年 男性

「働く」とは他人(はた)を楽(らく)にするともとれると聞いたことがある。自分がやりたいことをして「働く」ことが出来たら素晴らしいと思う。
公共政策学科 1年 男性

仕事にやりがいを感じたり、理想的な職場で働けることは幸せだと思うが、仕事は生きるためにしていることであって、そのために必要以上に思い詰めたり、ましてや自殺まで追い込まれることは正気とは思えない。
公共政策学科 1年 男性

働かなければ食べていけない。生きるために働く、それだけ。一生遊んで暮らせるだけの金があるなら、わざわざつらい思いをして働こうとは思わない。
法律学科 2年 男性

働くことを通して、自分でも知らなかった新たな自分に出会える。
政治経済学科 2年 女性

働くことで学べるものが多くあると思う。
経営法学科 1年 男性

友人ももう社会人が何人かいて、早く働きたいという気持ちがある。
公共政策学科 3年 女性

自分を成長させてくれる。
いつまでたっても日々勉強。
何かある方が生きられる。
そして幸せになる。
私も。私のまわりの人たちも。
責任感は人を強くする。
新聞学科 3年 女性

普段家ではさえない父親も、働いている時だけはカッコイイ。
二部法律学科 1年 女性

普段の生活の中で認めてしまっている自分の良いところ、悪いところが試されるのが働くことだと思う。堕落した人生を修正させるような、そんな役割があると思う。
新聞学科 2年 女性

数多くの人がいるこの世の中で、自分の求める職業に就くことは非常に難しい。しかし、どんな事にも自分の能力を活かす方法はあるはずだと思いたい。そうすれば、やりがいというものは自然と見つかると考えている。
二部法律学科 4年 男性

「社会人」になりたいというより「消費者」になりたいです。だから私は働きたいです。
公共政策学科 2年 女性

自分が今まで頑張ってきたことの集大成です。
新聞学科 2年 女性

がむしゃらに働けば、そのうち働くという意味がわかると思っている。
経営法学科 3年 男性

まだ1年生なので漠然とした夢しかないけど、その夢に近づくための努力をしたい。今は色んなアルバイトをして、どんな職種が合っているかも自分なりに見つけていきたい。
法律学科 1年 女性

この社会に生きているからには、周りの人々への恩返しとして社会貢献するべきであるし、働くことによって人間として成長することも大切。
政治経済学科 1年 女性

私は現在バイトもしていないが、友人の多くは就職したり、バイトと学業を両立させている。彼らと接するたびに、私は「働かざる者」として自分を意識する。この苦痛から逃れるためにも「働く」のだろうと思う。
公共政策学科 1年 男性

人が面倒だと思い、嫌だ、やりたくないと思うことをするのが、働くということ。
新聞学科 2年 男性

生きること。承認されること。何かを残すこと。
新聞学科 3年 男性

自分に合っている職を見つけるよりも、その職に合うように自分を変えることの方が先。
政治経済学科 1年 男性

公務員志望です。日本の中心である東京で学ぶ機会を与えられたことは本当に貴重だと思う。その知識を社会に還元すべき。
公共政策学科 3年 男性

私は職場が明るく、仕事をして楽しいと思えて、やりたい職種であれば給料が低くても全然……と思う。
法律学科 1年 男性

不景気、不景気とばかり言われ、どうせ無理だという気持ちになる。
新聞学科 2年 女性

将来、生活するためには働かなくてはならないけれど、仕事が大変すぎて自分の時間がないという風にはなりたくないと思います。クオリティ・オブ・ライフを大切にしたいです。
経営法学科 2年 女性

ただ単にお金のためだけに働くのは、少し虚しい感じもする。せっかくその職に就いたのであれば、そのスキルを最大限に発揮して、お金では得られないような喜びを得ようとするのも意味があると思う。
経営法学科 4年 男性

特別対談より

ロンドンブーツ1号2号 田村 淳さん × みんなの党代表 渡辺 喜美さん 不安な時代に「働く」君たちへ

2011年11月12日(土)、日本大学法学部校友会と法学部共催による、第5回講演会が開催されました。ゲストはロンドンブーツ1号2号の田村 淳さんと、みんなの党代表の渡辺喜美さん。「ニッポンの政治」と題する対談は、増税やTPPといったまさに「今」のテーマについて、会場の在学生とOB・OGを巻き込んでの熱い対談となりました。その締めくくりとして、これから「働く」法学部の学生たちへ贈られたお二人からのエールです。

日本大学法学部 本館3階 大講堂にて

田村 僕が若かった頃に比べて、世の中に不安要素がたくさんある時代です。そんな中で就職するとか、家庭をもつとか、不安だらけだと思います。だけど、立ち上がらなければ何も変えられないし、今日渡辺さんとお話しして感じたように、中にはきちんと考えて行動してくれている政治家さんがいらっしゃる。自分の目で見極めて、ぜひ選挙に行って政治家を選んでほしいと思います。もうひとつみなさんにお願いしたいのは、自分が得た知識を周囲の人に、わかりやすく、興味深く伝える方法を身につけてほしいということ。頭がよくて知識の豊富な人は、どうしても難しい話し方をしてしまう傾向にあるので、ぜひお願いします。

渡辺 大学の講義は「私語が多い」とか「居眠りしている学生がいる」とか聞いていましたが、みなさんの反応がよくて感激しました。すごいなと思った。私からぜひみなさんに申し上げたいのは、政治をあきらめないでほしいということです。放射能から子供を守ろうと、各地で会を立ち上げ、ついには行政を動かした「お母さん革命」のように。確かにデフレが続き、これから就職して働いていくみなさんは、お給料が上がりにくいなど厳しい時代だと思います。しかし、法学部の学生さんたちですので、あえて言いますと、ひとりひとりの手の中にある「正義」を行使してほしい。すると世の中は変えられます。ぜひ、よろしくお願いします。